『中国語学』執筆要領（2026 年 10 月改訂）

1. 使用言語

◇ 投稿原稿の使用言語は，日本語，中国語，英語のいずれかとする。

◇ 本文，論文題目，アブストラクト，キーワード，引用例の訳文に用いる言語は，それぞれ次のように定める。執筆者の母語以外で書いた部分については，信頼できる母語話者の校閲を経たものでなければならない。

本文	論文題目・執筆者氏名	アブストラクト・キーワード	本文とは異なる言語の引用例の訳文
日本語	日本語と英語［注］	論文冒頭：中国語 論文末尾：英語	日本語
中国語	中国語と英語［注］	論文冒頭：中国語 論文末尾：英語	中国語
英語	英語と中国語	論文冒頭：英語 論文末尾：中国語	英語

［注］英語の論文題目と執筆者氏名は，『中国語学』英文目次に掲載します。

2. 英語の論文題目，アブストラクト，キーワードの提出

◇ 本文に日本語または中国語を選択した場合，英語の論文題目，アブストラクト，キーワードは，採用または要二次審査となった者のみが，査読結果通知後，編集委員会が指定した期日までに別途提出する。なお，日本語と中国語の論文題目，アブストラクト，キーワードは投稿時に提出する。

3. 論文本体の書式と分量

◇ 論文本体は，学会ホームページに掲載されている「原稿テンプレート」ファイルを使用して作成する。「原稿テンプレート」の書式を遵守していない投稿は一切受理しない。

［参考数値］テンプレートの書式は以下の設定である。

■全体

ページの上下左右の余白（用紙 A4 縦）：上 67.5mm，下 67.4mm，左右 40 mm
行数（1 頁あたり）：31 行，　文字数（1 行あたり）：33 文字

■文字ポイント

論文題目：13.5 ポイント，　著者氏名：11 ポイント
アブストラクト：8.5 ポイント，アブストラクト文の左右の字落とし：本文の 2.5 字分
節見出し：9.5 ポイント
本文：9.5 ポイント

文末注：8 ポイント，　注の 2 行目以降の字落とし：2 文字分

参照文献：8 ポイント，　参照文献の 2 行目以降の字落とし：2 文字分

■文末アブストラクト

論文題目：13.5 ポイント

本文：8.5 ポイント，　本文の左右の字落とし：アブストラクト 31 文字分を中央揃

■行の開き

論文題目の上：1 行，　著者氏名の上：2 行，　キーワードの下：2 行

◇ 論文本体は，上記の書式でプリントアウトして 19 ページ以内となるようにする。

◇ 図表がある場合は，その内部の文字（地図の中の記号などは除く）は原則として 6 ポイント以上とする。表の場合は文字数や行数を大幅に増加させてはいけない。なお，図表や参考資料がある場合には，それらを含めて規定のページ以内におさまるようにする。

◇ 日本語，中国語をローマ字化する場合は，日本語はヘボン式（長母音は ei 以外は字母をかさねる），中国語はピンインを原則とする。その他の非ローマ字は特別な必要がない限りローマ字転写する。

◇ 本文の文字フォントについては，日本語については「明朝体」，中国語については，簡体字は「SimSun」，繁体字は「MingLiu」または「SimSun」を，欧文・アラビア数字は「Times New Roman」を用いることが望ましい（但し，本文が日本語で中国語の引用例が繁体字である場合，引用例は「明朝体」を用いてもよい）。なお，文字強調の際は，日本語については「ゴシック体」，中国語については，簡体字は「黒体」，繁体字は「黒體」を，欧文はイタリック体を用いることが望ましい。やむを得ず特殊なフォントを使用する場合は，その旨が分かるように投稿時に編集委員会への伝達事項の中で伝える。

4. 投稿原稿の構成

4-1. 本文が日本語の場合

◇ 論文本体（下記 6 を含まず 19 枚以内，ページ番号をつける）（執筆者名，所属機関名など，執筆者を特定し得る事項は書かないこと）

1. 日本語の論文題目
2. 中国語のアブストラクト（300 字以内），キーワード（3 個以上 5 個まで）
3. 本文
4. 注
5. 参照文献一覧（日本語文献，中国語文献，欧文文献の順に列挙する）
6. 英語の論文題目，アブストラクト（100 語以内），キーワード（3 個以上 5 個まで）[査読結果通知後に提出する。]

4-2. 本文が中国語の場合

◇ 論文本体（下記 6 を含まず 19 枚以内，ページ番号をつける）（執筆者名，所属機関名など，執筆者を特定し得る事項は書かないこと）

1. 中国語の論文題目
2. 中国語のアブストラクト（300 字以内），キーワード（3 個以上 5 個まで）
3. 本文
4. 注
5. 参照文献一覧（中国語文献，日本語文献，欧文文献の順に列挙する）
6. 英語の論文題目，アブストラクト（100 語以内），キーワード（3 個以上 5 個まで）[査読結果通知後に提出する。]

4-3. 本文が英語の場合

◇ 論文本体（下記 6 を含まず 19 枚以内，ページ番号をつける）（執筆者名，所属機関名など，執筆者を特定し得る事項は書かないこと）

1. 英語の論文題目
2. 英語のアブストラクト（100 語以内），キーワード（3 個以上 5 個まで）
3. 本文
4. 注
5. 参照文献一覧（欧文文献，日本語文献，中国語文献の順に列挙する）
6. 中国語の論文題目，アブストラクト（300 字以内），キーワード（3 個以上 5 個まで）

5. 注の付し方

(1) 注は本文の後に付す文末注とする。

(2) 本文中では，注番号は，半角アラビア数字を用いた通し番号で，1 字分の肩に上付きで半カッコを付し，1)，2)，3)のようにつける。

6. 本文・注での引用

6.1. 文例の引用

(1) 文例の引用に当たっては，改行して番号を冠する。改行に当たっては，テンプレートに従って左にインデントを設定する。引用の直前と直後に空白行は設けない。

(2) 用例番号および括弧には半角を使用する。

(3) 本文以外の言語の引用例には，本文と同じ言語の訳を付す。（例えば本文を日本語で書く場合，日本語以外の言語の引用例には日本語訳を付す。）文学作品等から引用された用例で長いものは，論証に不可欠と思われる箇所に下線を引き，その箇所の訳文のみを付す。

(4) 現代語文献からの引用例は，出典を明記する。（論証のキーとなる用例にはページも明記するのが望ましい。）

(5) 史的文献からの引用例には，出典，版本，ページを必ず明記する。なお，現代の刊行物ではない写本・刊本等から引用した場合であっても，出典を明記した上で，例えば巻数（或いは冊数），丁数といった引用箇所についての情報を具体的に示すこと。例：萬曆本《金瓶梅・第 17 回》9b，10

(6) インターネットからの引用例は，参照した年月日（西暦）を明記する。

(7) 引用例の出典は「参照文献」の後で〈引用例出典〉と冠して列挙する。

6.2. 会話分析や談話分析での会話断片の引用

(1) 会話断片の引用に当たっては，改行して番号を冠して行う。改行に当たっては，テンプレートに従って左にインデントを設定する。引用の直前と直後に空白行は設けない。

(2) 書き起こしの記号やトランスクリプト記号は，フォントに Times New Roman を使用することを推奨する。

(3) 本文以外の言語の引用例では，引用例の下の行に本文と同じ言語の訳を付す。

7. 本文・注での文献参照

(1) 本文や注の中で参照文献に言及するときは，「太田 1958: 21-25」のようにページまで指示する。但し，当該文献全体を参照して述べている場合はページの指示は略すことができる。

(2) 参照文献の著者が中国人・韓国人である場合は姓名を記し，他は特別な場合を除き姓のみを記す。同姓の著者は名まで記し，欧文の場合は，ギブンネームのイニシャルで W. Simon，H. Simon のように区別する。

(3) 同一著者による同一年の論著は，「潘悟云 2001a」，「潘悟云 2001b」のように，出版年の後にローマ字を加えて区別する。

(4) 参照文献（日本語もしくは中国語で書かれたもの）が 2 名による共著や共編であるときは，著者名と著者名の間には「・」（日本語）、“、”（中国語）を入れる。3 名以上による共著や共編であるときは，第 1 著者の直後に「ほか」（日本語）、“等”（中国語）を付し，第 2 著者以降を省略する。

【例】倉石・折敷瀬 1983

(5) 参照文献（英語で書かれたもの）が 2 名による共著や共編であるときは，著者名と著者名の間には「and」および半角スペースを入れる。3 名以上による共著や共編であるときは，第 1 著者の直後に「et al.」を付し，第 2 著者以降を省略する。

【例】Baxter and Sagart 2014

(6) 同一箇所で複数の参照文献に言及するときは，間を「、」で区切る。

【例】相原 1996、中川 2005

8. 参照文献一覧

8.1. 全体

(1) 本文および注で言及した文献は全て参照文献一覧に掲げること。参照文献一覧には〈参照文献〉と冠すること。

(2) 参照文献は，本文または注において引用・言及されたもののみを言語ごとにグルーピングし，以下の体裁に準じて日本語文献は五十音順に，中国語文献はピンイン順に，欧文文献はアルファベット順に記載する。

(3) インターネット上の情報を参照もしくは引用した場合は，以下のように記す。␣は半角スペースを表すものとする。

作成者␣「資料名もしくはウェブページの題名」(URL)。20xx 年 yy 月 zz 日参照。

(4) 初版ではなく後代の版を参照した場合は，「1956 [1928]」のように初版の出版年を半角の角括弧内に付記する。

(5) 未刊行の論著は，掲載が決定しておりかつ印刷中であるものに限って言及してよい。日本語文献であれば当該文献の情報の末尾に（印刷中），中国語文献であれば（印刷中)，欧文文献であれば(in press)と付記する。「未刊」「待刊」「即将出版」「forthcoming」は用いない。

(6) 〈参照文献〉の直前，つまり文末注の最後の行の直後には空白行を 1 行入れる。

(7) アラビア数字とアルファベットは，原則としてフォントに Times New Roman を使用する。

8.2. 日本語文献の一覧

以下のように記す。␣は半角スペースを表すものとする。約物は開始頁・終了頁を繋ぐ符号と号を括る丸括弧を除き全角。

・雑誌掲載論文（単著）

著者姓名␣出版年.「論文題目」,『雑誌名』巻(号)：開始頁-終了頁。

【例】平山久雄 2000.「「給」の来源―「過与」説に寄せて―」,『中国語学』247：56-70 頁。

・雑誌掲載論文（共著）

第 1 著者姓名・第 2 著者姓名␣出版年.「論文題目」,『雑誌名』巻(号)：開始頁-終了頁。

【例】山崎直樹・小川典子 2024.「3 言語使用者を目指すわけ―台湾クロス留学を選択した学生の事例から―」,『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』20 周年記念特別号：127-161 頁。

・図書（単著）

著者姓名␣出版年.『書名』。出版地：出版社。

【例】小野秀樹 2018.『中国人のこころ――「ことば」からみる思考と感覚』。東京：集英社。

著者姓名（著)，訳者姓名（訳）␣出版年.『書名』。出版地：出版社。

【例】朱德熙（著），杉村博文・木村英樹（訳） 1995.『文法講義―朱德熙教授の中国語文法要説―』。東京：白帝社。

・図書（共著）

第 1 著者姓名・第 2 著者姓名␣出版年.『書名』。出版地：出版社。

【例】三宅登之・加藤晴子（著），東京外国語大学中国語研究室（編） 2015.『東京外国語大学中国語教材 文法』。府中：東京外国語大学中国語研究室。

・図書（共編など）

第 1 編者姓名・第 2 編者姓名（編）␣出版年.『書名』。出版地：出版社。

【例】内田慶市・沈国威（編） 2007.『19 世紀中国語の諸相―周縁資料（欧米・日本・琉球・朝鮮）からのアプローチ―』。東京：雄松堂出版。

・図書掲載論文など（単著）

著者姓名␣出版年.「論文題目」，編者姓名（編）『書名』：開始頁-終了頁。出版地：出版社。

【例】楊凱栄 2011.「能力・状況・技能を表す助動詞――中国語の可能表現」，東京大学言語情報科学専攻（編）『言語科学の世界へ――ことばの不思議を体験する 45 題』：61-76 頁。東京：東京大学出版会。

・図書掲載論文など（共著）

第 1 著者姓名・第 2 著者姓名␣出版年.「論文題目」，第 1 編者姓名・第 2 編者姓名（編）『書名』：開始頁-終了頁。出版地：出版社。

【例】井上優・黄麗華 2014.「日中対照から見た中国語の文末助詞」，小林賢次・小林千草（編）『日本語史の新視点と現代日本語』：248-262 頁。東京：勉誠出版。

・学位論文

著者姓名␣学位授与年.「論文題目」. 博士学位論文. 学位授与機関名。

【例】朱春躍 2006.「中国語と日本語の実験音声学的研究」. 博士学位論文. 神戸大学。

8.3. 中国語文献の一覧

以下のように記す。␣は半角スペースを表すものとする。約物は開始頁・終了頁を繋ぐ符号を除き全角。

・雑誌掲載論文（単著）

著者姓名␣出版年.《论文题目》,《期刊名》第 n 期：首页-末页。

【例】古屋昭弘 1995.〈〈正字通〉版本及作者考〉,《中国语文》第 4 期：306-311 页。

・雑誌掲載論文（共著）

第 1 著者姓名、第 2 著者姓名␣出版年.《论文题目》,《期刊名》第 n 期：首页-末页。

【例】柯理思、太田斎 2017.〈从汉语方言变音现象谈汉语的形态类型〉,《中国方言学报》第 7 期：27-48 页。

・図書（単著）

著者姓名␣出版年.《书名》。出版地：出版社。

【例】古川裕 2021.《现代汉语认知语法与教学语法研究》。北京：商务印书馆。

著者姓名（著），訳者姓名（译）␣出版年.《书名》。出版地：出版社。

【例】太田辰夫（著），蒋绍愚、徐昌华（译） 2003［1987］.《中国语历史文法》（修订译本）。北京：北京大学出版社。

・図書（共著）

第 1 著者姓名、第 2 著者姓名␣出版年.《书名》。出版地：出版社。

【例】秋谷裕幸、陈泽平 2012.《闽东区古田方言研究》。福州：福建人民出版社。

・図書（共編など）

第 1 编者姓名、第 2 编者姓名（编）␣出版年.《书名》。出版地：出版社。

【例】竹越孝、遠藤光暁（主編） 2016.《元明漢語文獻目録》。上海：中西書局。

・図書掲載論文など（単著）

著者姓名␣出版年.《论文题目》，编者姓名（编）《书名》：首页-末页。出版地：出版社。

【例】大西克也 2021.〈上古漢語“有”字存在句及其時間性質〉，耿振生、陈燕、孙玉文（编）《語苑探賾——庆祝唐作藩教授九秩华誕文集》：481-494 页。北京：商务印书馆。

・図書掲載論文など（共著）

第 1 著者姓名、第 2 著者姓名␣出版年.《论文题目》，编者姓名（编）《书名》：首页-末页。出版地：出版社。

【例】张国宪、卢建 2013.〈从始点之视到终点之视——汉语定语的时空视角走向〉，木村英樹教授還暦記念論叢刊行会（编）《木村英樹教授還暦記念中国語文法論叢》：142-156 页。東京：白帝社。

・学位論文

著者姓名␣授予学位年份.《论文题目》. 博士学位论文. 授予学位的机构名。

【例】方经民 2003.《现代汉语空间方位参照系统认知研究》. 博士学位论文. 上海师范大学。

8.4. 欧文文献の一覧（以下，FN はファミリーネームを，GN はギブンネームを表す）

以下のように記す。␣は半角スペースを表すものとする。約物はいずれも半角。著者名と刊行年の間，刊行年と論文名の間，編者と掲載書名の間など，異なる性質の情報の間には半角スペースを入れる。刊行年にはパーレンを付さない。掲載頁の直前に「pp.」を入れない。著者や編者のギブンネームは頭文字のみではなく全体を記す。例えば，「Karlgren, B.」ではなく「Karlgren, Bernhard」と記す。

・雑誌掲載論文（単著）

FN,␣GN.␣出版年.␣論文題目.␣*雑誌名*␣巻(号):␣開始頁-終了頁.

【例】Hirata, Shoji. 2016. “Let Us Abandon ‘Benevolence, Righteousness, Ritual Propriety, and Wisdom’”: The Emergence of the Institute of History and Philology, Academia Sinica.

Acta Asiatica 110: 99-118.

・雑誌掲載論文（共著）

FN1,␣GN1,␣and␣FN2,␣GN2.␣出版年.␣論文題目.␣*雑誌名*␣巻(号):␣開始頁-終了頁.

【例】Lien, Chinfa, and Wang, Penying. 2001. A-not-A question in Taiwanese Southern Min. *Journal of Chinese Linguistics* 29: 351-376.

・プロシーディングス掲載論文（単著）

FN,␣GN.␣出版年.␣論文題目.␣*プロシーディングス名*.␣開始頁-終了頁.

【例】Sasaki, Yoshihito. 2020. Pictograms and Japanese Construal in Cognitive Linguistics. *The Asian Conference on Arts & Humanities 2020 Official Conference Proceedings*. 209-216.

・図書（単著）

FN,␣GN.␣出版年.␣*書名*.␣出版地:␣出版社.

FN,␣GN.␣出版年.␣*書名*␣(GN␣FN␣trans.).␣出版地:␣出版社.

【例】Karlgren, Bernhard. 1975. *Schrift und Sprache der Chinesen* (Ulrich Klodt trans.). Berlin: Springer.

・図書（共著）

FN1,␣GN1,␣and␣FN2,␣GN2.␣出版年.␣*書名*.␣出版地:␣出版社.

【例】Ladefoged, Peter, and Johnson, Keith. 2015. *A Course in Phonetics* (7th ed.). Stamford: Cengage Learning.

・図書（共編など）

FN1,␣GN1,␣and␣FN2,␣GN2␣(eds.)␣出版年.␣*書名*.␣出版地:␣出版社.

FN1,␣GN1,␣FN2,␣GN2,␣and␣FN3,␣GN3␣(eds.)␣出版年.␣*書名*.␣出版地:␣出版社.

【例】Chen, Howard Hao-Jan, Mochizuki, Keiko, and Tao, Hongyin (eds.) 2023. *Learner Corpora: Construction and Explorations in Chinese and Related Languages*. Singapore: Springer Nature Singapore.

・図書掲載論文など（単著）

FN,␣GN.␣出版年.␣論文題目.␣In␣GN␣FN␣(ed.),␣*書名*.␣出版地:␣出版社.␣開始頁-終了頁.

FN,␣GN.␣出版年.␣論文題目.␣In␣GN␣FN,␣and␣GN␣FN␣(eds.),␣*書名*.␣出版地:␣出版社.␣開始頁-終了頁.

【例】Iwata, Ray. 2018. Chinese Tonal Neutralization Across Dialects: From Typological, Geographical, and Diachronic Perspectives. In Haruo Kubozono, and Mikio Giriko (eds.), *Tonal Change and Neutralization*. Berlin: De Gruyter Mouton. 156-200.

FN,␣GN.␣出版年.␣論文題目.␣In␣GN␣FN,␣et␣al.␣(eds.),␣*書名*.␣出版地:␣出版社.␣開始頁-終了頁.

【例】Kizu, Yuko. 2017. Chinese in the Ryūkyū Islands. In Rint Sybesma, et al. (eds.), *Encyclopedia of Chinese Language and Linguistics*. Leiden: Brill. 462-469.

・図書掲載論文など（共著）

FN1,␣GN1,␣and␣FN2,␣GN2.␣出版年.␣論文題目.␣In␣GN␣FN,␣and␣GN␣FN␣(eds.),␣*書名*.␣出版地:␣出版社.␣開始頁-終了頁.

【例】Endo, Tomoko, and Yokomori, Daisuke. 2020. Self-addressed Questions as Fixed Expressions for Epistemic Stance Marking in Japanese Conversation. In Ritva Laury, and Tsuyoshi Ono (eds.), *Fixed Expressions: Building Language Structure and Social Action*. Amsterdam: John Benjamins. 203-236.

・学位論文

FN,␣GN.␣学位授与年.␣論文題目.␣Doctoral dissertation.␣学位授与機関.

FN,␣GN.␣学位授与年.␣論文題目.␣Master's thesis.␣学位授与機関.

【例】Hashimoto, Mantaro Joseph. 1965. Phonology of Ancient Chinese. Doctoral dissertation. Ohio State University.

9. 論文末尾に付す執筆者氏名，論文題目，アブストラクト，キーワード（英語の場合）

(1) 論文題目については，冠詞，4 文字以下の等位接続詞，4 文字以下の前置詞は頭文字を小文字にする。但し，主題と副題の先頭は大文字にする。

(2) 執筆者氏名は FN, GN の順で，ともに頭文字以外は小文字で記す。FN の直後には半角カンマを入れる。

(3) アブストラクト，キーワードについては，それぞれ冒頭の中国語アブストラクト，キーワードとの間に齟齬が生じないようにする。

(4) 固有名詞でないキーワードの頭文字は小文字で記す。

10. 注意事項

(1) 投稿時には謝辞のたぐいを書いてはならない。（謝辞は印刷初校段階において，執筆要領に示す制限枚数の許す範囲内で加えてよい。）

(2) 論文の本文および注に，執筆者名，所属機関名など，執筆者を特定し得る事項は書かないこと。(例えば,「筆者は△△2011 において…」(△△は筆者の姓) のような書き方や，注などで自身の所属や指導教員が分かるような書き方をしないように留意する。自身の既発表論文に言及する場合も，客観的な書き方で言及すること。)

(3) 執筆者の母語以外の言語による作例は, 信頼できる母語話者の校閲を経たものでなければならない。